



平成二十九年九月二十日

皇紀2677年
(西暦2017年)
第154号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

朝晩はひんやりしてきましたね

秋の風が吹いてきました

これを書いているのは九月二十日です。日中は少し暑さを感じる日もありますが、厳しかった残暑もすっかり終わり、すっかり秋めいてきた今日この頃です。

季節の変わり目ということで、体調管理も難しい時期です。夏の疲れもどっと出てきます。「秋バテ」という言葉もありまして、自律神経の乱れから来る症状などが出やすくなります。こういうときはビタミンB群を摂るとか、お風呂はぬるま湯で入るとか、運動したり体を温めたりするということも有効なようです。元気に秋を過ごすためにも気をつけましょう。



神社うんちく帖

さて、今回も「神社うんちく帖」の続きです。日本の神話に登場する神さまたちのご紹介。徐々に「世界」の創造が始まるのです。

◆芽吹く神「宇摩志阿斯訶備比古遲神」

前回ご紹介した天御中主神と高御産巢日神、そして神皇産靈神は、原初の世界を作りました。これらの神を称して「造化三神」と呼びます。

造化三神によって原初の世界が作られました。そこにはまだ何もなく、地上世界もまだ水の上に浮かぶ油のような、クラゲが漂うようなものでした。そこに現れたのが「宇摩志阿斯訶備比古遲神（うましあしかびひこじのかみ）」という神さまです。ちよつと長い名前です。

この神さまは「芽吹く神」です。泥の中から葦の芽が吹くような勢いで現れました。それが神名としても表れています。

「うまし」は、現代の言葉では「美しい」とか「よい」という意味。「あし」は「葦」であり、「かび」は「黴カビ」と同じ意味の言葉で、醗酵するもの、芽吹くものという意味です。つまり「葦の芽が美しく芽吹く」ことを表した名前なのです。

日本は「豊葦原」と言い表されることがあります。その「葦が生い茂る様」は、生命力の力強さを表しており、とても重要な意味を持ちます。その「葦」の名がつくこの神さまは、原初の世界に生まれた、力強い生命力の象徴といえる存在ということがわかります。

ちなみに「ひこじ」というのは男性につけられる言葉ですが、この神さまには性別はないとされています。

「宇摩志阿斯訶備比古遲神」という名前は『古事記』で用いられる名前で、『日本書紀』では「可美葦芽彦舅尊」という名前で登場します。

◆天上を支える神「天常立命」

続いて現れたのが「天常立神（あめのとこたちのかみ）」です。この神さまは「天上」つまり「高天原」をとこしえにささえる神さまで、こちらの神さまも性別はありません。

これら五柱の神さまたちはすぐにお隠れになり、『古事記』では「別天神五柱（ことあまつかみいっはしら）」と呼ばれています。

住吉神社例祭のお知らせ

浦免に鎮座します住吉神社の平成二十九年度の例祭のお知らせです。

◆日時・場所

- ・平成二十九年十月十三日
- ・午前十時半より住吉神社社殿にて

どなたでもご参拝いただけますのでお気軽にお越しください。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。